

# ラオスにおける「コンテンポラリー（ダンス）」ジャンルの形成に関する人類学的研究

大村優介（東京大学大学院）

## 理論的背景・問題意識

「コンテンポラリーダンス」というジャンルの舞踊は、年代、地域、舞踊に関わるアクター、場面によって様々に定義され実践されている（Kwan 2017）。各地域において「コンテンポラリー」というジャンルで名指される舞踊実践は、地域で伝統的に実践されてきた舞踊様式、諸外国の舞踊界との関係、教授システムのあり方などの要素の違いにより、多様な歴史的経緯を持ち様々なスタイルで行われている。芸術実践に関する人類学では各地域で「コンテンポラリー」と名付けられる芸術実践についてフィールド調査に基づいて探究する試みが重ねられている（ex. Fillitz 2015）。コンテンポラリーダンスについても、「コンテンポラリー」というジャンル自体が、様々な地域の固有の歴史的経緯・環境の中で形成され変容する様相が分析される必要がある。

## 方法

本発表は、ラオスで唯一コンテンポラリーダンスのパフォーマンスを行うグループとして 2013 年から活動している、Fanglao Dance Company の実践に関して、発表者が 2019 年 11 月から現在まで断続的に行ってきた調査に基づく。具体的には、ダンサーへのインタビュー調査、公演の鑑賞、ワークショップや教室への参加、ダンスカンパニーやダンサーによる SNS での発信内容に関する調査を行った。

## 調査地背景

ラオスでは 1975 年以降の一党独裁政権の下で、90 年代まで諸外国（特に旧西側諸国）との交流が制限されたり、現在もメディアや芸術への厳しい検閲が課されている。その中で首都ビエンチャンを中心に 2010 年代以降、現代芸術の担い手が

現れ、政府による後援が乏しい状況下で諸外国の大使館・国際機関の基金を利用したり、時にジャンルの異なる芸術家同士が協働し野心的な表現活動を行っている。

## 本発表の分析観点

以上の問題意識と背景を確認した上で本発表は、Fanglao Dance Company の活動の中で、ラオスにおける「コンテンポラリーダンス」というジャンルが立ち上がり、実践される過程を分析する。同カンパニーは劇場の設立、国外のダンサーとの交流、教室の開設、写真家や画家との共同制作などを通して、コンテンポラリーダンスの裾野を広げ、その可能性を開拓している。

さらに、キャリアやダンスカンパニーへの関与の度合いの異なる複数のダンサーそれぞれが、コンテンポラリーダンスという舞踊のスタイルをどのようなものとして認識し、自身のパフォーマンスとして実践しているかについて、インタビュー調査の内容を基に分析する。

以上の分析により本発表は、一つのダンスカンパニーが異なる背景と志向性を持つダンサーたちが集まる拠点となり、国外のダンサーや他ジャンルの芸術家など外部との関わりの中で絶えず変化を取り込みながら活動を展開する様態に焦点を当てた、芸術集団についてのエスノグラフィーを提示する。そして「コンテンポラリーダンス」というジャンルの様々な地域での多様な展開に関する一研究事例を提示する。

## 参考文献

- Fillitz, Thomas. 2015. "Anthropology and Discourses on Global Art." *Social Anthropology*. 23(3): 299-313.
- Kwan, SanSan. 2017. "When Is Contemporary Dance?" *Dance Research Journal*. 49(3): 38-52.